

心であそぶ モノトーン



カッターで描く無心の技 切り絵作家 アイカさん

切り絵というアートを「ご存じですか。市内公共施設に作品が展示されるなど、最近注目されるようになってきたアマチュア切り絵作家のアイカさん取材しました。

**黒い紙に描く細密な図案
陰影のシルエツトが魅力**

切り絵は黒い紙をハサミやカッターで切り抜いてシルエツトの陰影を楽しむ絵画の手法の一つで、愛好家も多いそうです。

市内在住で会社員をしながら、レース編みのように繊細で緻密な切り絵を創作するアマチュア切り絵作家アイカ（稲葉愛香）さん。切り絵作家という事になっていきますが、実は絵画、裁縫、編み物など多趣味で細かい指先の作業は何でも好きだそうです。その時々マイ



ブームで趣味を楽しみ、嫌になったら中断して次のマイブームに乗る。それがアマチュアの特権であり魅力でもあります。

その中で20年近く興味が続いているのが切り絵です。アイカさんは「ほかの趣味と違って自分の中の流行りすたりがない感じで続いています。たぶん、創った作品そのものより紙を切っていく細かな作業の過程が私



にとって大切だからじゃないかと思えます」と話していました。

**作家デビューは職場から
創作作品を貸し出し開花**

図案のデザインを考え、ラフな下書きをして作業をはじめ、切りながらイメージを膨らませていく過程から創り出された作品は100点以上になるけれど、完成した切り絵はアイカさんが創作の過程で描いた夢や心の残光のようなもので、外に出すつもりもなくアトリエの収納に仕舞いこんでいたといいます。

思いがけず作品が外に出るきっかけとなったのは勤



めている会社でした。サービスマンで「お客さまが見た時に殺風景かな」と思った場所に何げなく飾った作品に、上司がとても喜んで口コミで広めてくれました。「世間ではすごいって言ってもらえるものなんや」と驚いたそうです。

うれしい気持ちもあったけれど、アートとして創作しているのと同じ物は二度

と創れないし、誰かの注文通りに創るのも無理。アマチュアの自由さがなくなっ

**切り絵作家の原点は点描画
アマチュアの自由度楽しむ**

小さいころから紙とペン

さえ渡しておけば静かに絵

を描いて一人遊びをして

いたアイカさんは、お父さん

の仕事の都合で小学6年生

から高校1年生までアメリカ

で暮らしました。渡米して

すぐに濃淡で描き上げる

鉛筆画と点描画を習いはじ

めたそうです。今思うと、

それが切り絵の原点になっ

たのではないかと思います。

切り絵作家として注目され

はじめ、会社員をしながら

切り絵や趣味の創作、家事

など多忙な中でどう製作時

間を捻出しているのかを尋

ねると、会社勤務や家事な

ど、一日の仕事がすべて片

付いた後が創作の時間との

ことでした。

アマチュアの自由度にこだわらるアイカさんは「どちらかといえばネガティブだった私が、音楽を使った幼児教育に関わる今の職場と、切り絵の世界に出会ってからプラス思考に変わりました。これからも平穩を乱すことなく好きな切り絵作品を創り続けていけたらと思っています」と話していました。

**緊張も不完全燃焼も魅力
趣味から広がるアートの世界**

一枚の紙を丁寧に切っていく作品作りは少しでも失敗すると取り返しがつかないし、切った時の達成感もあまり感じられない。その代わり、刃物で切るという製作方法はストレス発散になるそうです。アイカさんは「少しの緊張感と不完全燃焼感も私にとっては切り



絵の魅力です」と笑顔を見せていました。

アマチュアだからこそ作品を大勢の人に認めてもらえるのは純粋にうれしいもの。切り絵作品を仕上げていく過程をインスタグラムで発信したり、偶然知り合ったガラスアーティストと組んで風鈴の短冊をデザインしたり、趣味の世界が少しずつアーティストの活動に広がっています。「自由」を条件に、創作の依頼を受けることもあります。

平成24年に市内で個展を開いたのをはじめ、これまで駅前総合案内所やびわパールのイベント会場で展示されたほか、京都や大津で展示会も開きました。市立図書館のカフェではちょうど今日から展示される事になっています。



切り絵作家Aikaさん